

# コンテンツ産業のさらなる発展を目指す 人材育成の実践と重要ポイント

映像産業振興機構（V I P O）専務理事・事務局長

市井三衛  
いちい さんえ



映像産業振興機構（V I P O）は経団連の提言を受け、2004年にコンテンツ関連の各種団体、主要企業および賛助企業の参加を得て、NPOとして設立された。以来、コンテンツ産業における人材育成と海外展開・市場開拓を支援の柱として20年間活動を続けてきた。本稿では、特に人材育成にかかわる取り組みを概観しつつ、現時点で重要と考えられるポイントを整理する。

## 人材育成にかかわる三つの観点

クリエイターを育成するうえで重要なのは、①継続性、②長期的サポート、③グローバル視点、の三つである。これらの観点から具体例を紹介したい。

コンテンツの競争力の源泉は、クリエイター等の「人」であり、その「人」の才能・努力が重要であることは論をまたない。そのうえで、才能・努力を開花させる支援が必要となる。V I P Oでは、2006年から20年にわたって文化庁からの委託により「若手映画作家育成プロジェクト（ndjc）」を継続的に実施している。この事業から多くの商業映画監督が生まれ、近年では、出身監督が海外の映画祭で高く評価されるケースも生まれている。継続的な取り組みの重要性を示す好例といえよう。

第81回ベネチア国際映画祭オリゾンティ・コンペティション部門選出『HAPPYEND』（2024年）の空音央監督は、2019年に

経済産業省の支援を受け、2020年には文化庁の研修に参加している。また、2023年にはV I P Oの自主事業にも参加している。カンヌ国際映画祭2025「コンペティション」部門選出作品である『ルノワール』の早川千絵監督は、2020年度より文化庁、経済産業省の支援事業に参加し、プロデューサーの水野詠子氏は、V I P Oの自主事業と経済産業省の支援事業に参加している。各人も国・V I P Oがサポートを始めてから数年後に、海外で高い評価を得るようになった。育成事業は即時に成果が表れるのではなく、時間をかけて才能が認められるものであることを念頭に、長期的にサポートしていくことが必要と考えている。

また、前述のクリエイターおよびプロデューサーは海外を視野に入れた活動を行っている。したがって、人材育成を行う側、支援する側も海外展開を前提にしたグローバルな取り組みを行う必要がある。

## 映像産業を支える多様な人材の育成と支援の必要性

次に、V I P Oでは自主事業として様々なタイプの人材育成の取り組みを行っているが、その中で「V I P Oアカデミー」「V I P O Film Lab」を紹介する。

V I P Oアカデミーは、2015年にスタートしたコンテンツ業界のリーダー育成を目的とした事業であり、経営幹部人材を育成する「コーポレートリーダーコース」、現場のマネジメント力を強化する「プロジェクトリーダーコース」などを開講している。現在までに累計164社、延べ1055人が参加している。コースごとのスキルアップのみならず受講者同士のネットワーク構築や、企業間のコラボレーションのきっかけの場にもなっている。

V I P O Film Labは、グローバルな視野を持ち、国内外で活躍できるプロデューサー、監督、脚本家など業界のプロフェッショナル

を育成する場として2021年にスタートした。国際的に活躍する若手プロデューサーの育成を目的とした「国際プロデューサーコース」（累計100人以上が参加）を開講するなど、全10コース（2025年度を用意し、映画における多様な人材育成を進めている。V I P Oでは映画監督のみならず多様な人材の育成が必要と考え、このような取り組みを実践し続けている。

## 学生と映画業界をつなぐ実践型インターンシップ

最後に教育機関との連携に関する取り組みを紹介する。V I P Oでは、文化庁の「映画スタッフ育成プロジェクト」を受託し、運営している。この事業は、映画製作者や映画関係の教育機関等との連携のもと、学生にインターンシップとして制作現場での実践的な実習等の機会を提供している。学生からの申し込みは学校を通して行い、「学びの場」としてのインターンシップであることを個別面談を通して確認し、事前指導を行うとともに、受け入れ側の制作会社もインターンシップの趣旨を理解し、指導するにあたって人的および物理的環境の整った現場を用意している。事務局（V I P O）は、きめ細かなマッチング

を行い、学生と映画業界とが相互理解を深めながら、将来の映画産業を支えていく人材を育成すべく活動を行っている。このような取り組みは他の各コンテンツ業界においても参考になるのではないか。

## 人材育成に関する重要なポイント

人材育成にかかわる重要なポイントを以下に整理しておく。

- ・長期的・継続的な取り組みの必要性
- ・グローバルな視点での人材育成の必要性
- ・プロデューサー、スタッフ、企業人材など多様な分野の人材育成の必要性
- ・海外留学を志すクリエイターなどへのサポートの重要性
- ・学生と各コンテンツ業界の相互理解に資するきめ細かなインターンシップの必要性

人材育成は「基幹産業」たるコンテンツ産業の継続的な発展のための最も重要な基盤であることから、今後もV I P Oとして注力していくとともに、この分野に対する国、産業界からの継続的なサポートの重要性を記して本稿を締めくくりたい。